通しナンバーの後ろのかっこの中は、その証拠を受け取るためにPCが提示しなければならない証拠カードの番号です。

**「失われた物語」4-1**

「本の紛失」初期　4-1-1

先日行われた展示会で、学者の所有する稀少本が紛失した。

「アリバイ」商人　4-1-2　（1）

紛失が発覚した時、商人と学者は展示会場で片付けの手伝い、貴族、記者、マスターはパーティー会場に、靴磨きは馬車の御者として展示会場とパーティー会場の間にいた。

「学者の借金」マスター 4-1-3（1）

学者はかなりの借金をしているらしい。

「巻物」記者　4-1-4（1）

紛失した本は巻物というもので、巻くとかなり小さくなる。

「持ち物検査」記者　4－1－5（2）

紛失の発覚後、パーティー会場では持ち物検査があったが、何も見つからなかった。

「馬車の故障」貴族　4-1-6（2）

パーティー会場への出発直前に馬車が故障して、靴磨きと学者が修理した。

「学者が馬車を？」靴磨き　4-1-7（6）

学者が展示会の前日と翌日に、靴磨きが展示会当日に使っていた馬車を借りた。翌日の方はその馬車を指名したらしい。なぜ壊れた馬車を？馬車は商人の知り合いのもの。

「細工の痕跡」商人　4-1-8（7）

馬車を調べたところ、車輪を外れやすくした細工の痕跡と、小さな箱が取り付けられていた形跡が見つかった。

「学者の自白」真相　学者　4-1-9（7、3、4。他のカードがあってもよい）

保険金目的で紛失を偽装していた。

**「毒殺」1-9**

「アンダーソン氏の死」初期　1-9-1

アンダーソン氏が毒殺された。容疑者はボストン氏。

「B氏の買い物」商人　1-9-2（1）

事件の前に変わった瓶をボストン氏が買ったらしい。

「落ちていた瓶」靴磨き　1-9-3（2）

ボストン氏が商人から買った瓶を、靴磨きが拾った。

「決定的証拠」学者　1-9-4（3）

ボストン氏が買った瓶には、犯行に使われた毒が入っていた。これは決定的な証拠といえるだろう。